

私はこどもの頃、バングラデシュでドラえもんを見て日本に興味を持ち、留学先として日本を選びました。現在、アルバイトをしながら日本語を勉強しています。趣味は写真を撮ることです。時々、私は鳥栖のいろいろな場所へ行って写真を撮ります。例えば、山や古いお寺などです。鳥栖の中で、私の一番好きな場所は朝日山です。



朝日山



国籍 バングラデシュ

名前 アミン エムディ シャハリアー

年齢 20歳

好きな言葉 希望

特技 料理

■やさしい日本語クイズ答え
(18ページ) ①とても暑い日
②疲れたときは休む ③水やお茶を飲むこと ④熱い所において気分が悪くなること

スンドルバンスも有名です。さらに、コックスバザールには世界で最も長い自然の砂浜があり、多くの観光客が訪れます。歴史的な建物もたくさんあります。昔の王様や支配者によって建てられた宮殿や要塞、モスクなどが今も残っています。



故郷の空と睡蓮

とす新風土記「鳥栖市誌」を読む 第126回 「勝尾城を知る」第22話 筑紫氏と田代町

戦国時代の鳥栖には、都市のな場所として『町』がいくつか存在しました。天正12年(1584年)に伊勢神宮に参詣した人々のリポート『御参宮人帳』には『ひせん田代町木やふ郡』の住民が銀を奉納した記録があります。戦国時代の田代は、銀を奉納できる富裕層も居住する町として発展していたようです。

さて、田代に所在する神社の多数は、戦国時代に由緒をもっています。年代順にみていきましょう。
天文11年(1542年)、筑紫氏の名字の地・筑前国御笠郡筑紫村(現・福岡県筑紫野市)から浄寛寺(田代上町)が移転。同年、筑紫氏家臣の天本氏が禅宗寺院の甘泉院を真宗寺院の光徳寺(田代大官町)に改めます。永禄年間(1558～1570年)には、昌元寺(田代上町)の昌元寺町(現・田代昌町)から現在地への移転や、筑後国小郡祇園宮を勧請した田代八坂神社(田代新町)の創建がなされます。天正2年(1574年)には、筑紫広門の命令で家臣の友清氏が西清寺(田代上町)を再興します。

こうして、16世紀後半に田代町へ神社が集められます。これは、領主の筑紫氏による田代町整備の一環と考えられます。
ところで、田代町と筑紫氏の本拠・勝尾城の位置関係は興味深いものです。旧長崎街道は田代大官町で折れ曲がって南進します



▲田代八坂神社 (田代新町)

が、明暦元年(1655年)の付け替え以前は、そのまま西に直進していました。さらに西進すると、その先には勝尾城下の町場『新町』があり、交通・物流の要衝として田代町を整備し、筑紫氏の本拠・勝尾城と直結しようとする筑紫氏の意図がうかがえます。(鳥栖市誌第3巻第4章第3節より)

「鳥栖市誌」発売中

「鳥栖市誌」は、市教育委員会生涯学習課、油屋本店、古賀書店などで取り扱っています。詳しくは、同課(☎0942-85-3695)へ。



「記事ID」をご利用ください

市ホームページの記事ID検索窓に、市報に掲載しているIDを入力することで情報を確認できます。



2026.9

22